

會 務

土木學會誌 第十六卷第十二號 昭和五年十二月

○昭和五年十月二十一日役員會を開く、中川會長、八田、眞島の兩副會長、古市前會長、木津眞田、谷口、橋本、平井、前川の各常議員、丹治、牧野兩主事出席、中川會長議長席に着き下記事項を決議せり。

△日本工學會より申出に係る「科學的研究に關する不備缺陷の事例調査」に關する委員會に本會委員として會員物部長穗君を選出すること。

△日本工學會移牒内閣統計局申出の國勢調査に關する産業分類及び職業分類案に關する件は編輯委員長に其の調査を一任すること。

△故廣井工學博士記念事業會申出の寄附並に版權讓渡の件は申出通之を承認すること。

其の他會務に關する事項。

會議終了後中川會長より先般開催せられたる全國都市問題會議に土木學會代表として參加せられたるにより其の經過並に今後同會議開催の都度土木學會長は特別委員として參加すべきことに決定したる旨報告ありたり。

○同年十一月十日編輯委員會を開く。黒河内委員長、田中(豐)、田中(寅男)、山口、三浦、鈴木の各委員出席會誌編輯上に就き協議を爲せり。

調 査 會 記 事

○昭和五年十月三十一日より十一月一日に亘り東京市神田區學士會館に於て混凝土調査委員總會を開催せり。

○用語調査會第三回及び第四回幹事會原案に對する各委員の意見を取纏め十一月五日之れを各幹事に送附せり。

○昭和五年十一月八日土木學會誌第十六卷第九號發行成規の手續を了し翌九日之を各會員に送附せり。

○昭和五年十月十六日以降同年十一月十五日迄に於て入會の手續を了し名簿に登録したる者下記の通り(○印は轉格を示す)

准 員

○内 田 新 五 君 ○堀 内 恭 一 君 ○宍 戸 輝 雄 君 石 田 國 太 郎 君

故に

$$R = \frac{2.01}{1.12} = 1.795$$

第一圖上段より

$$R = 1.795 \text{ に對し}$$

$$K = 1.59$$

従て許容最大熔接長は

$$Z = 1.59 \times \sqrt{2.01} = 1.59 \times 1.416 = 2.25'$$

即ち上記に假定した熔接長は第二圖の如き断面の接手に於ては最大限度のものであることがわかる。若し計算より得た Z が $2.25'$ より大となる時は隅肉の断面を大きくして熔接長を短縮しなければならぬ。

(田中武次抄譯)

學 生 員

神田直美君 磯野博君 萩野璋太郎君 福井武弘君
 村本順次君 堀田澤郎君 板倉武治君 川村卯三郎君
 榊原正芳君

○下記諸君は退會せられたり。

會 員

熊谷直造君

准 員

入江善之助君 小山良雄君 新井熊市君 小谷一男君

昭和五年十月十六日以降十一月十五日迄に於て寄贈又は交換を受けたる雜誌其他下記の通り。

寄贈の分

水道十月號	1冊	水 道 社
東京土木建築業組合報第十月號	1冊	東 京 土 木 建 築 業 組 合
The Excavating Eng. No 10,	1冊	三 井 物 産 株 式 會 社
工業之大日本十月號	1冊	工 業 之 日 本 社
ワット第 10 號	1冊	ワ ッ ト 社
日立評論第 10 號	1冊	日 立 評 論 社
シビル十一月號	1冊	シ ビ ル 社
支那と日本に於ける古代と近代	1冊	啓 明 會 社
名古屋工業會誌第 162 號	1冊	名 古 屋 工 業 會 社
工學第十一月號	1冊	東 京 工 學 社
セメント界彙報第 246 號	1冊	セ メ ン ト 界 彙 報 發 行 所
東京工業會誌第 11 號	1冊	東 京 工 業 會 社
工人大阪支部特輯號	1冊	日 本 工 人 俱 樂 部
水曜會誌第 5 號	1冊	京 都 帝 國 大 學 工 學 部 採 鑛 冶 金 學 教 室
工事畫報第十一號	1冊	工 事 畫 報 社

交換の分

造船協會雜纂 102 號	1冊	造 船 協 會
電氣學會雜誌第 507 號	1冊	電 氣 學 會
業務研究資料自第 39 號至第 44 號	6冊	鐵 道 省 大 臣 官 房 研 究 所

日本建築士第4號	1冊	日	本	建	築	士	會
鐵と鋼第10號	1冊	日	本	鐵	鋼	協	會
日本鑛業會誌第546號	1冊	日	本	鑛	業	會	會
帝國鐵道協會々報第10號	1冊	帝	國	鐵	道	協	會
衛生工業協會誌第10號	1冊	衛	生	工	業	協	會
機械學會誌第162號	1冊	機	械	學	會	會	會
造船協會會報第46號	1冊	造	船	協	會	會	會
建築雜誌第538號	1冊	建	築	學	會	會	會

會員服部鹿次郎君は昭和五年十一月七日逝去せられたり、本會は弔辭を靈前に呈し謹
で哀悼の意を表したり。

准員菱谷淺吉君學生員北林秀七君は本年十一月逝去せられたり。本會は謹で哀悼の意
を表す。

雜誌閱覽に就ての會告

下記の雜誌は本會事務所に備付置候間御希望の向は下記時間内御隨意に御閱覽相成度候。

閱 覽 時 間

日曜日及祭日休、土曜日自午後一時至同四時、其他自午後四時至同八時。

但し役員會、委員會等開催の日は御斷り致すこと有之哉も計られず候間豫め御承知置被下度候。

備 付 雜 誌

Engineering
Engineering News-Record
Le Génie Civil
Railway Gazette
衛生工業協會誌
機械學會誌
業務研究資料(鐵道大臣官房研究所)
建設
建築雜誌
工學部紀要(東大、京大、九大)
工學報告(東北帝大)
工業化學雜誌
工事畫報

工 港 國 際 建 築 時 論
造 船 協 會 々 報
帝 國 鐵 道 協 會 々 報
鐵 氣 學 會 誌
電 氣 製 鋼
電 氣 製 鋼
土 木 建 築 雜 誌
日 立 評 論
名 古 屋 工 業 會 々 報
滿 洲 技 術 協 會 誌
其 他 寄 贈 雜 誌

廣 告 料 (東京市京橋區築地上柳原町八番地 東京第一通信社取扱)
電話京橋 872 番、振替東京 3069 番

普通廣告 一回一頁 40 圓 一回半頁 25 圓

指定廣告	{	裏表紙三面對向	一回一頁 60 圓
		及廣告初頁	一回一頁 150 圓
		裏表紙三面	一回一頁 75 圓
		色アート	

- 指定廣告は凡て一箇年繼續申込のものに限り取扱ふものとす
- 會員自身の廣告に對しては總て上記料金の一割引とす
- 同一廣告の連續掲載申込に對しては半箇年分五分引、一箇年分一分引とす
- 廣告に寫眞版又は木版等を挿入する場合は之に要する實費を別に申受くるものとす

寄稿に関する注意事項

- (1) 御寄稿は成るべく本會の原稿用紙を用ひ横書きとすること、原稿用紙は御請求次第送附す。
- (2) 御寄稿は止むを得ざる場合の外は成るべく本會の原稿用紙 200 枚（本會誌 50 頁）程度とされたし、若し前記頁數を超過する場合は適宜其の程度に縮少を御願ひすることもあるべし。
- (3) 假名は平假名とし、數字はなるべくアラビア文字を用ひられたし。
- (4) 歐字は特に明瞭に認むること。
n と u, u と v, r と v, a と α, r と γ
其の他頭字と小字とを判然たらしむる事。
- (5) 原稿には必ず冒頭に英文表題及内容梗概を添附されたし。
- (6) 附圖附表に就ては次の各項に御注意ありたし。

(イ) 圖面はその儘縮寫し得る様にトレーシング・ペーパー、オイル・ペーパー、トレーシング・クロス等とす。

(ロ) 凡て墨色を用ひインキ類或は彩色を施さざる事。

(ハ) 方眼紙は青罫のものを用ひ（黄色、赤色の罫は使用せざる事）縦横線を必要とする部分には豫め墨線にて之を描き置かれたし。

(ニ) 圖表中の文字、數字は特に大きく肉太に書し縮寫したる後明瞭たらしむる事。

(ホ) 圖表類は製版の都合上可なり汚損するものと豫め御含み下されたし。

- (7) 寫眞は特に明瞭なるものを送られたし。
- (8) 講演、論說報告の各欄に掲載の分には抜刷 20 部を寄稿者に贈呈するものとし、尙寄稿者の希望に依り實費にて御要求に應ずる事あるべし。

算式其の他の記し方大體標準。

- (1) 本文、文字間に算式を挿入する場合には次の如く記すこと。 a/b と書き $\frac{a}{b}$ を避けること。 $(a+b)/(c+d)$ と書き $\frac{a+b}{c+d}$ を避けること。
- (2) 獨立したる列に算式を記す場合は次の如く記すこと。 $\frac{1}{3}x$ と書き $\frac{x}{3}$ を避けること。 $\frac{1}{2}(a+b)$ と書き $\frac{a+b}{2}$ を避けること。 $\frac{a}{b+cd}$ と書き $\frac{a}{b+c\frac{1}{d}}$ を避けること。
- (3) 千以上の數字は 53 247 000 の如く 3 つ單位に間隔をあけること。
- (4) 名數は次の如く記し括弧の中の様に書くことを避くること。

83.4 尺（八丈三尺四寸）、7 吋（七吋）、35 錢（三十五錢）、13.56 圓（十三圓五十六錢）、1~4 時間（一乃至四時間）、88 826 噸（八萬八千三百二十六噸）、1929 年 1 月 1 日（千九百二十九年一月一日）。

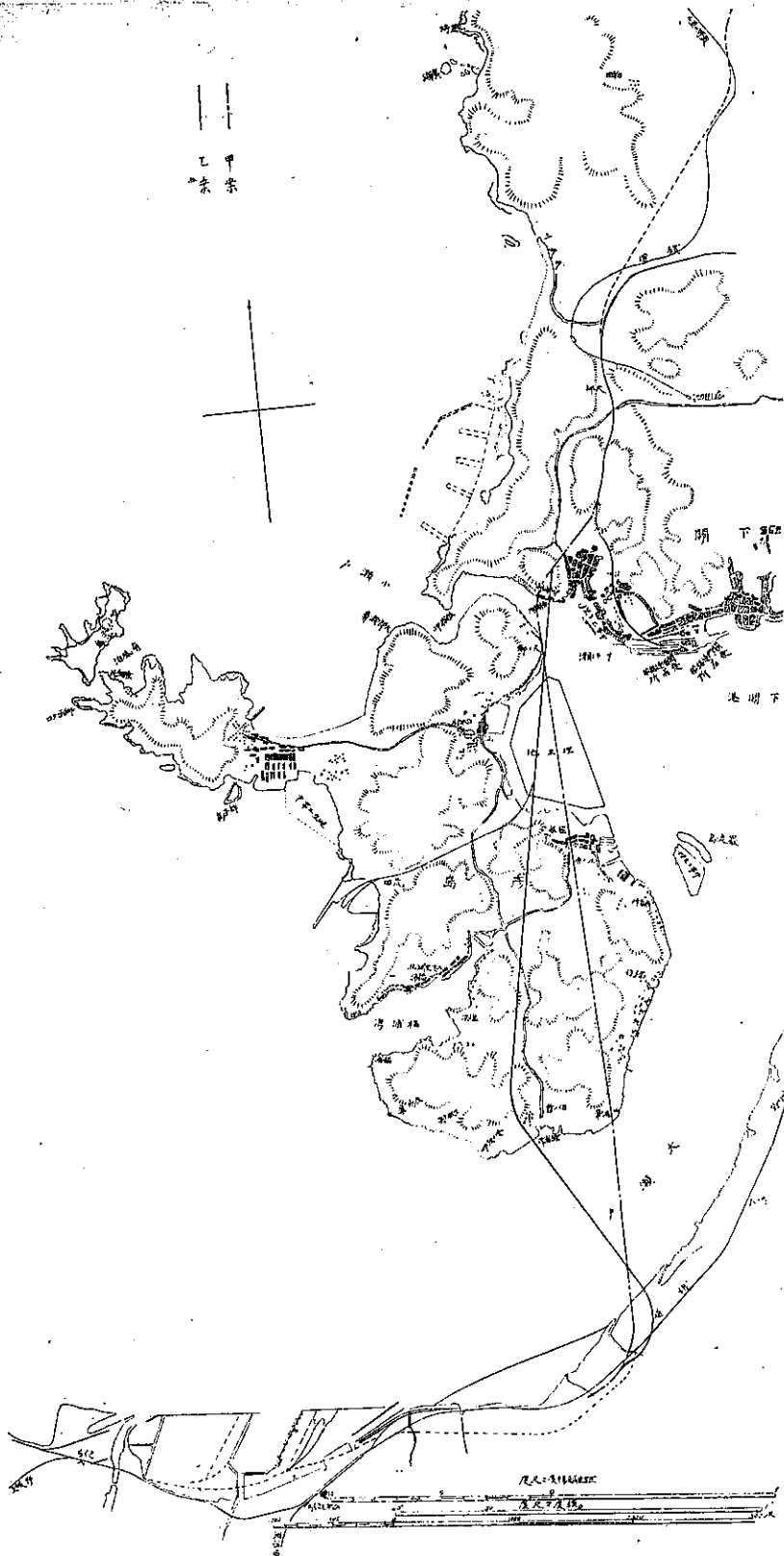
會 告

本會誌第十六卷第六號所載の論文木津正治氏著「關門隧道工事に就て二三の私見」の附圖全部を先般御返送方御依頼申上候處今回訂正圖出來致候間別紙本號に添付御送附申上候

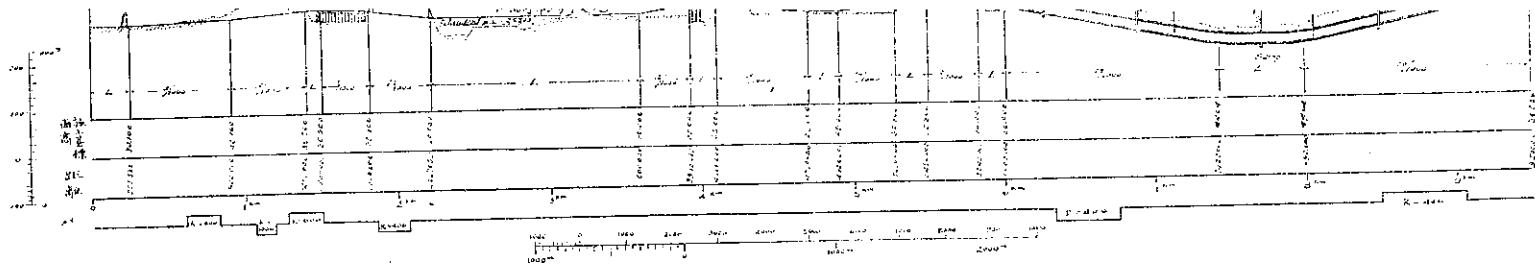
追而未だ御返送なき向も有之候間御手數ながら至急

御挿替の上御送附相煩度此段更めて御依頼申上候

附圖第一 關門隧道路線圖 (昭和五年九月十二日下關要塞司令部許可濟)

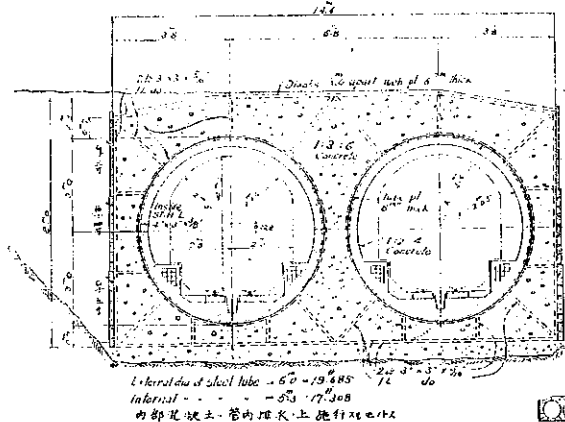


(土木學會雜誌第十六卷第六號附圖)

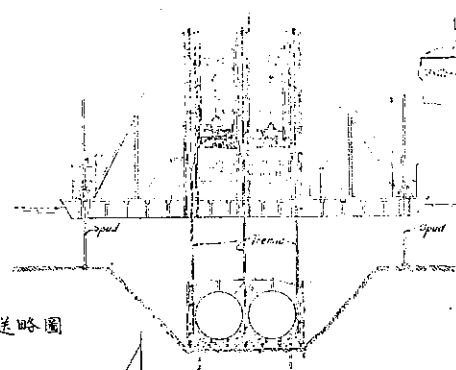


隧道断面圖

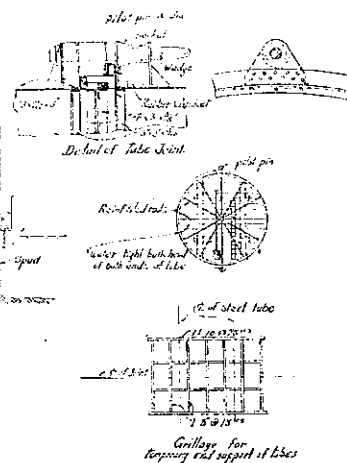
兩管接合方法圖



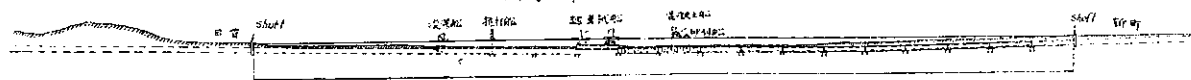
外部混狀土施行方法略圖



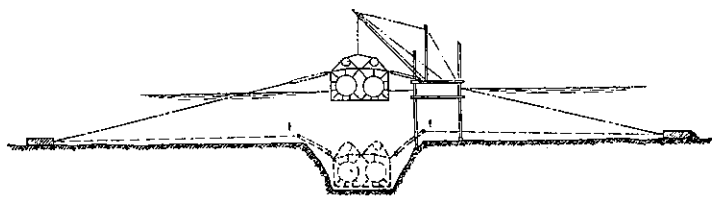
鐵管浮送略圖



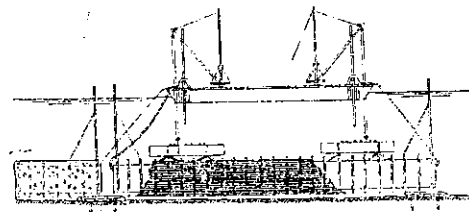
海底工事施工方法略圖



鐵管沉下作業圖



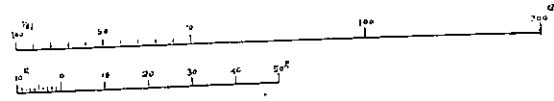
鐵管沉下後接合作業圖



附圖第十二 大瀨戶断面圖

(昭和五年九月十二日下關要塞司令部許可濟)

縮尺 { 橫
 { 縱
備考



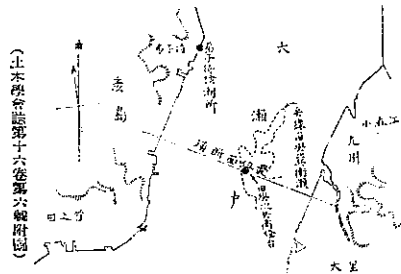
- 1 M.H.W.S.T — 男子待檢潮標 16.08
M.L.W.S.T — 男子待檢潮標 2.33
- 2 M.H.W.S.T 以T 断面標 152.400年7.2
M.L.W.S.T 以T 断面標 100.500年9.4
M.H.W.S.T 以T 断面標 123.000年8.4
M.L.W.S.T 以T 断面標 131.100年9.4

水深
單位
尺

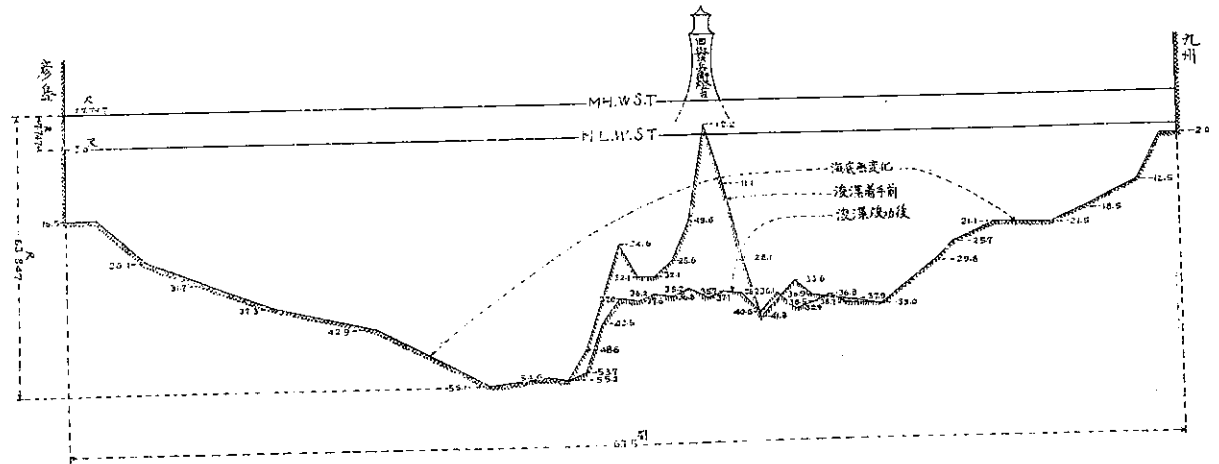
断面位置指示圖

海圖百二十五號寫

縮尺

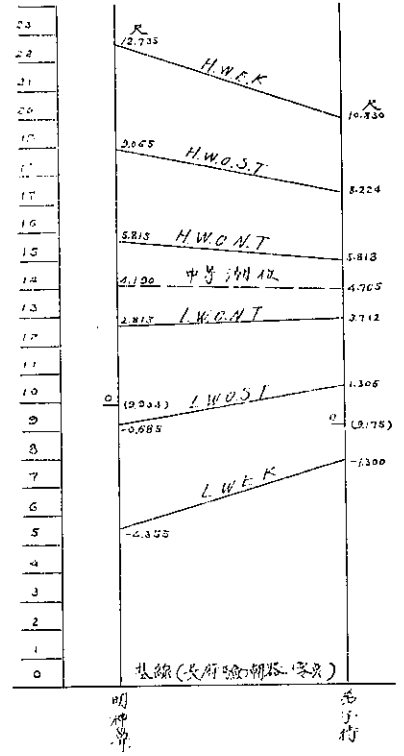
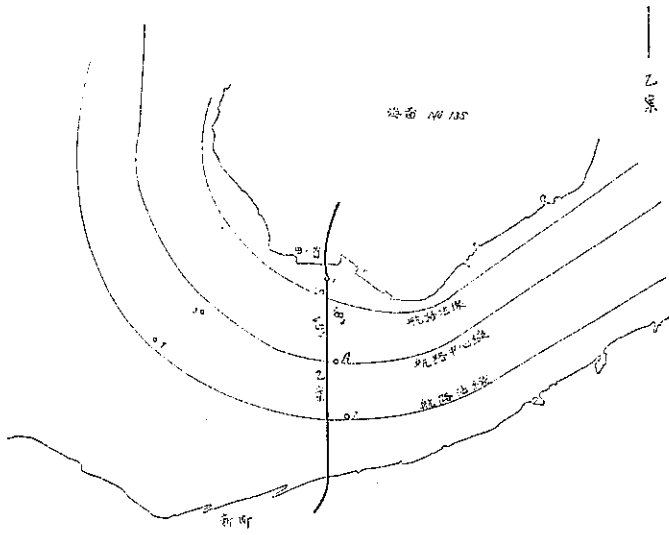


(土木學會誌第十六卷第六號附誌)



附圖第十 明神鼻及弟子待の潮位

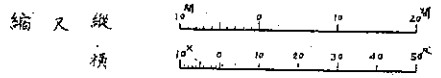
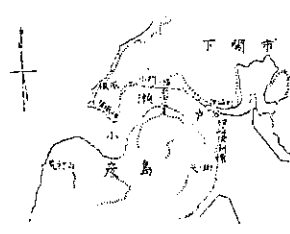
附圖第九 乙案線路附近汽船欄坐位置圖
(昭和五年九月十二日下關要塞司令部許可濟)



(.....) 一 測量潮位、基線上の高サ
其他、各輪潮位、ゲージ

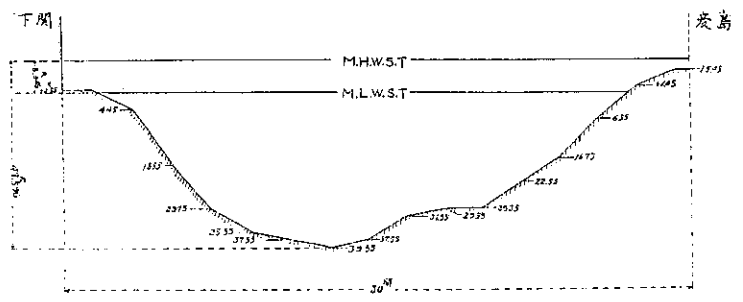
附圖第十一 小瀬戸断面圖
(昭和五年九月十二日下關要塞司令部許可濟)

断面位置指示用平面圖
海圖第百三十五號
縮尺 1:1000



備考 (Remarks)
M.L.W.S.T以下断面積—1002平方丈
M.H.W.S.T以下断面積—1288平方丈

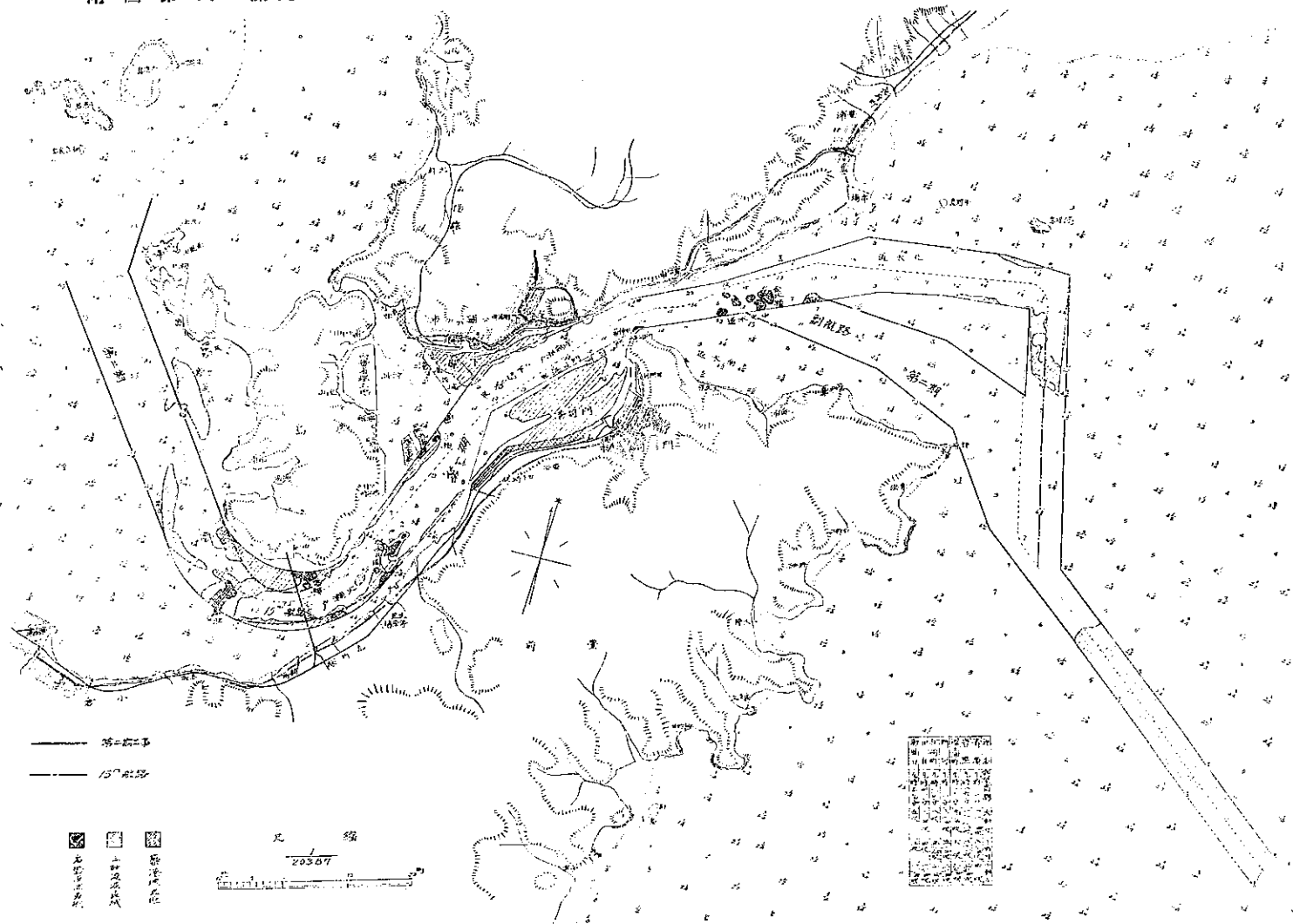
水位深天 (Water Level Depth)



(土木學會誌第十六卷第六號附圖)

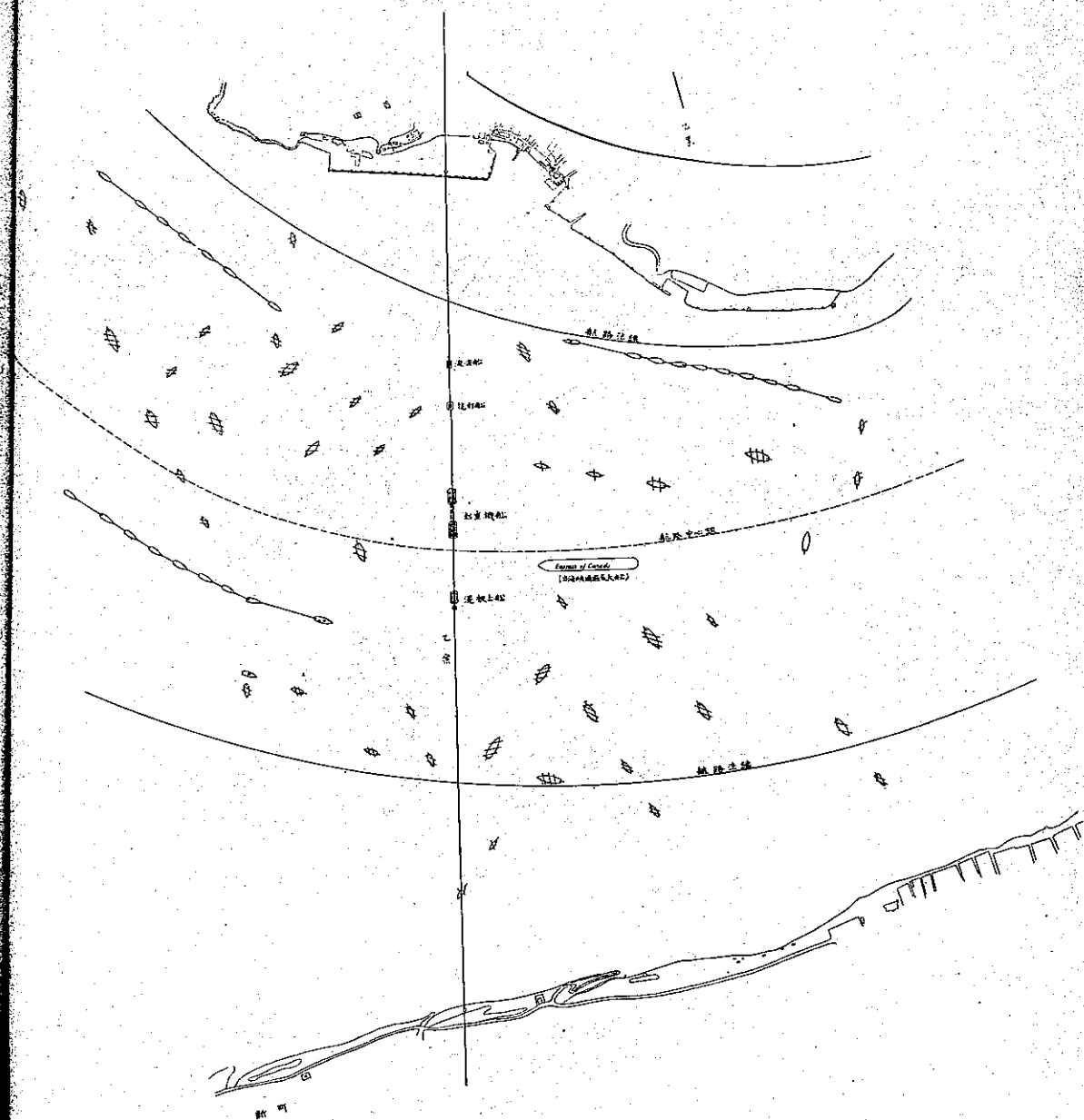
附圖第八 關門海峽改良計畫圖

(昭和五年九月十二日下關要塞司令部許可濟)

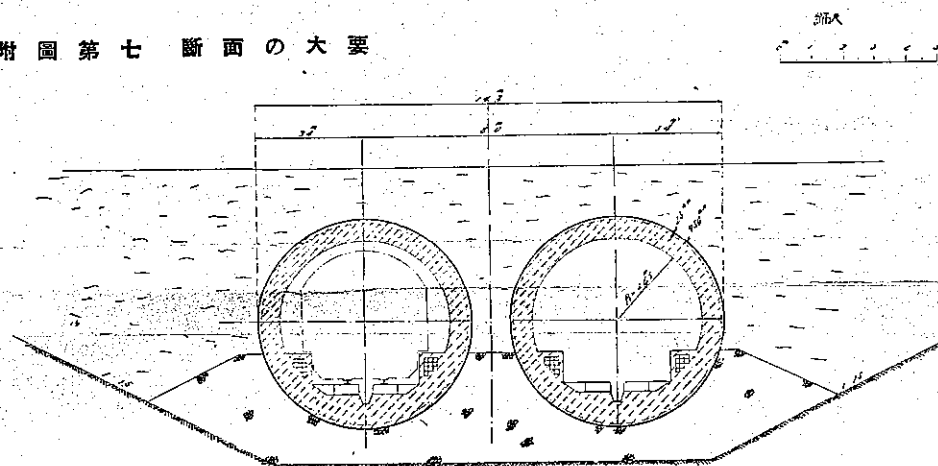


(北平學會誌第十六卷第六號附圖)

附圖第六 工作船と通過船舶との關係大要圖 (昭和五年九月十二日下關要塞司令部許可濟)



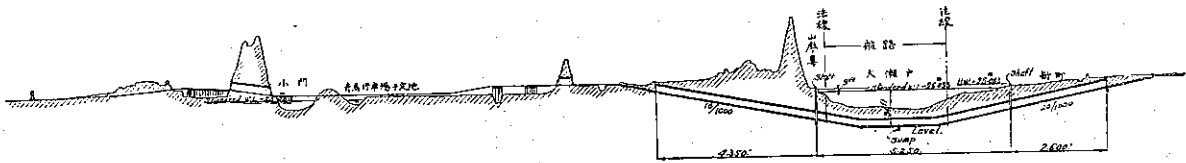
附圖第七 断面の大要



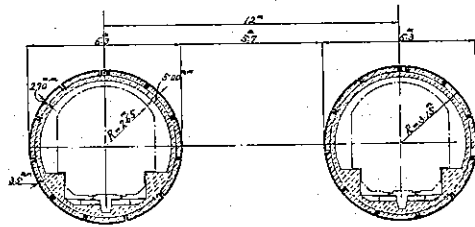
(土木學會誌第十六卷第六號附圖)

附圖第二 關門隧道計畫圖 (壓控空氣作業式) (昭和五年九月十二日下關要塞司令部許可濟)

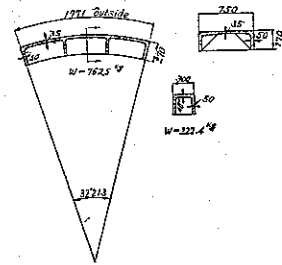
縱斷面圖



隧道斷面圖

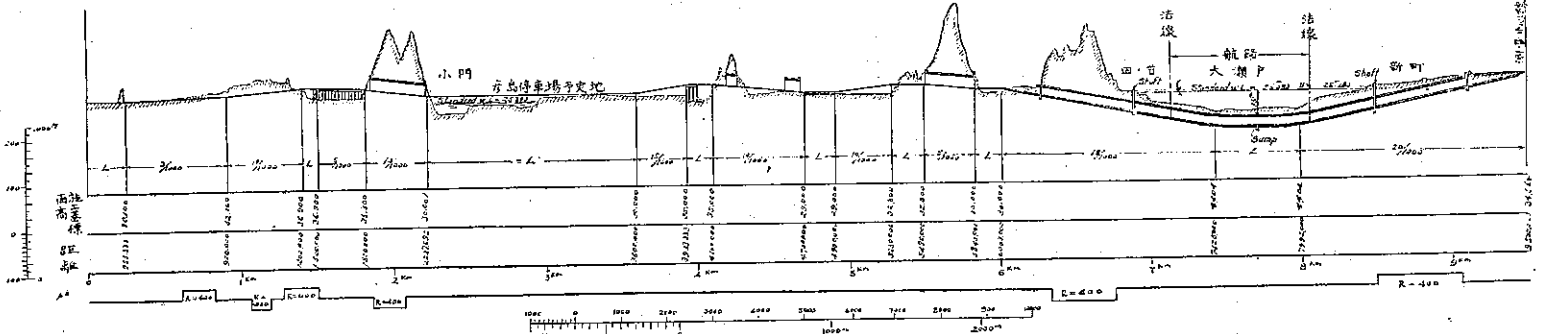


鐵管詳細圖

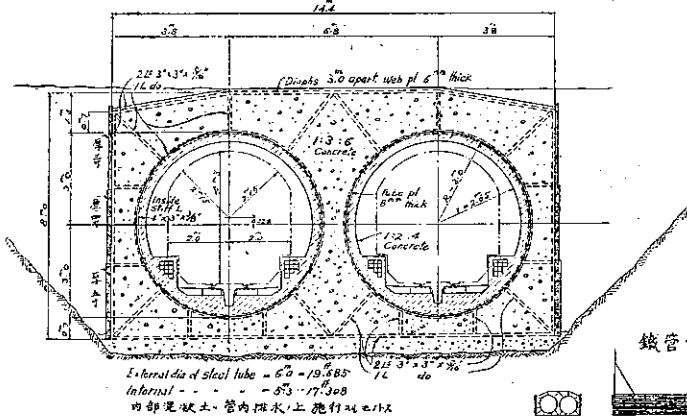


附圖第三 關門隧道計畫圖 (沈埋式) (昭和五年九月十二日下關要塞司令部許可濟)

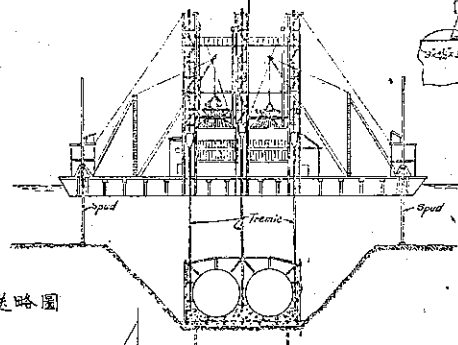
縱斷面圖



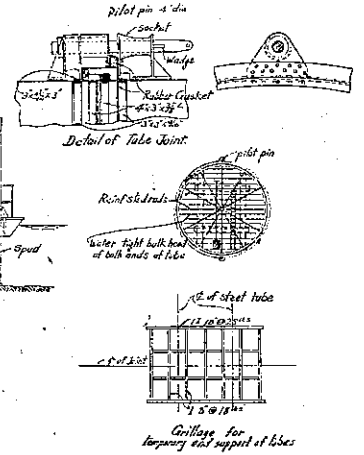
隧道斷面圖



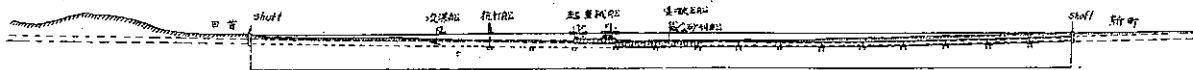
外部混泥土施工方法略圖



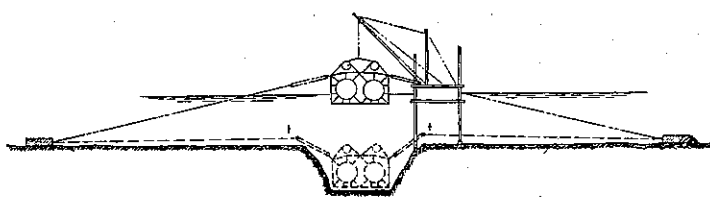
兩管接合方法圖



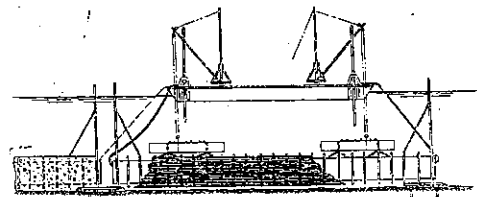
海底工事施工方法略圖

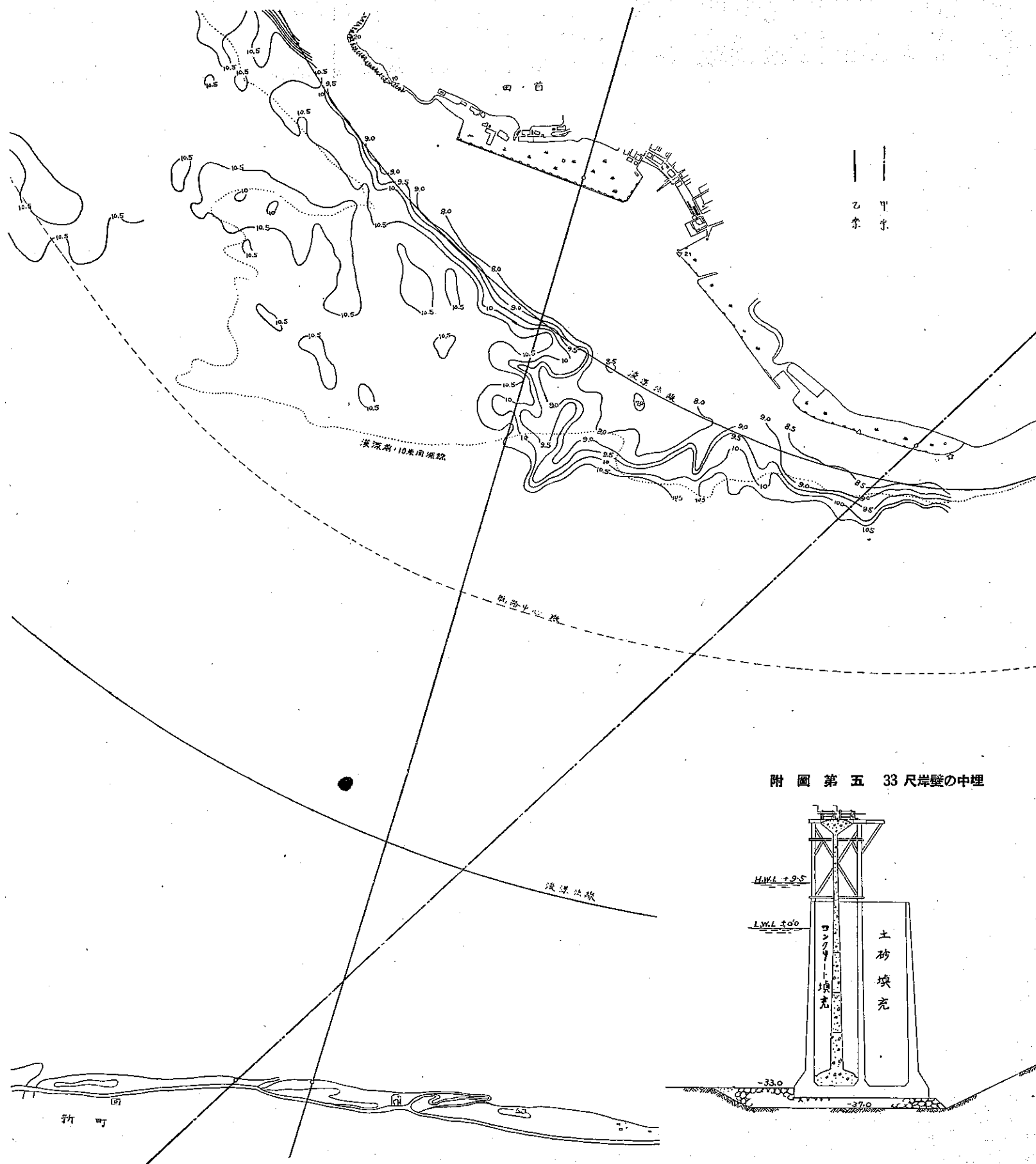


鐵管沉下作業圖

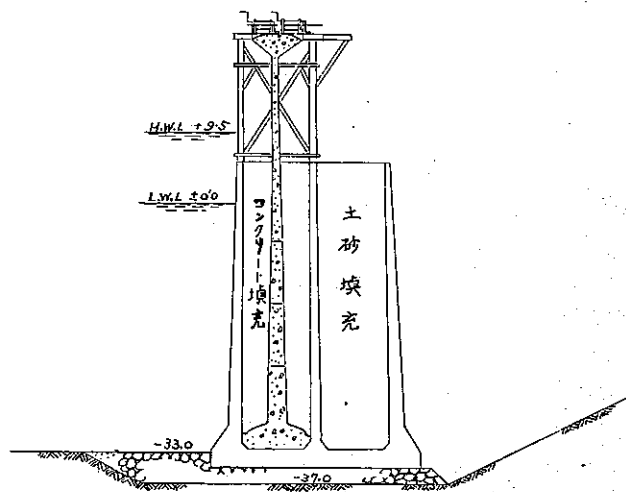


鐵管沉下後接合作業圖





附圖第五 33尺岸壁の中埋



(上水橋を陸第十六卷第六附圖)

新町